

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																						
成田つくば航空専門学校	平成2年11月8日	山本 阜二	〒302-0004 茨城県取手市取手西野1842 (電話) 04-7188-7787																						
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																						
学校法人 朝日学園	昭和55年3月19日	湯澤 大介	〒270-0034 千葉県松戸市新松戸4-2-1 (電話) 047-341-5888																						
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																					
工業	工業専門課程	航空整備学科 航空整備士コース	平成28年文部科学大臣告示第19号	-																					
学科の目的	航空機整備業務に必要な基礎的事項を教育し、航空従事者を育成する。																								
認定年月日	平成27年2月17日																								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位 数	講義	演習	実習																				
3年	昼間	2,552時間	767時間	--	--																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																				
90人	54人	1人	10	4	18																				
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 基準:各座学・実技試験にて70点以上を合格とする。																				
長期休み	■学年始: 4月 1日～4月 4日 ■夏 季: 8月 2日～8月31日 ■冬 季: 12月24日～1月 6日 ■学年末: 3月11日～3月31日			卒業・進級 条件	所定の出席時間及び所定の成績にて進級・卒業判定する。																				
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 個人面談・三者面談の実施、補講・補習、特別カリキュラムの実施			課外活動	■課外活動の種類 ・スポーツ大会 ・学園祭(N-TAC祭) ■サークル活動: 無																				
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和2年度卒業生) ・JALエンジニアリング ・日本飛行機 ・JAMCO ・JALエアテック ・ジェットスター・ジャパン ・多摩川エアロシステムズ ・マイナミ空港サービス ・東京イメージ検査 ・日立建機 ・カナモト ・荏原エリオット ・その他 ■就職指導内容 ・就職担当を配置、担任と学生の3者で協議して学生の レベルと企業が求めるレベルを総合判断して企業に 応募する体制としている。 ・企業が求める人物像を学生に享受し、企業で必要な 資格の取得を指導。			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業者に関する令和3年3月31日時点の情報)																				
	■卒業者数: 13 人 ■就職希望者数: 13 人 ■就職者数: 13 人 ■就職率: 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100.0 %				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>二等航空運航整備士</td> <td>①</td> <td>12人</td> <td>12人</td> </tr> <tr> <td>危険物 乙種4類</td> <td>②</td> <td>19人</td> <td>11人</td> </tr> <tr> <td>英語検定2級</td> <td>③</td> <td>9人のべ)</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>英語検定準2級</td> <td>③</td> <td>2人のべ)</td> <td>0人</td> </tr> </tbody> </table>	資格・検定名	種	受験者数	合格者数	二等航空運航整備士	①	12人	12人	危険物 乙種4類	②	19人	11人	英語検定2級	③	9人のべ)	1人	英語検定準2級	③	2人のべ)	0人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																						
二等航空運航整備士	①	12人	12人																						
危険物 乙種4類	②	19人	11人																						
英語検定2級	③	9人のべ)	1人																						
英語検定準2級	③	2人のべ)	0人																						
	■その他 ・進学者数: 0人				※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																				
	(令和) 2 年度卒業者に関する (令和3年5月1日 時点の情報)				■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等 特記なし。																				
中途退学の現状	■中途退学者 0 名 令和2年4月 1日時点において、在学者64名(令和2年4月 1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者64名(令和2年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 0				■中退率 0 %																				
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 ・学校独自の奨学金制度なし。 ・授業料等減免制度: 有、 家族入学奨励金制度(本校の在校生又は卒業生の兄弟姉妹・ご子息ご令嬢の入学に際し、初年度授業料の一部免除)として導入。 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																								
当該学科のホームページURL	URL: http://www.n-tac.ac.jp/																								

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

「実学重視」をすべての学科における教育の基本と位置付けている。それを実現するため、時代の変化に的確に対応し、航空業界の発展に貢献する人材育成を目指し、関連する業界団体や企業の担当者との組織的な交流を通して、常に教育課程の改善を図ることを基本方針とする。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、職業実践専門課程に求められる企業・業界団体等との密接かつ組織的な連携体制を確保して、授業科目の開設等の教育課程の編成に関する提案を行い、その提案を基に審議する。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年7月1日現在

名前	所属	任期	種別
久野 嘉一	公益財団法人 日本航空技術協会	令和3年5月10日～ 令和5年5月31日	①
岩本 信也	株式会社 JALエンジニアリング	令和2年6月1日～ 令和4年6月30日	③
佐々木 孝明	多摩川スカイプレシジョン株式会社	令和3年6月1日～ 令和5年6月30日	③
熊谷 仁志	株式会社 IHI 航空・宇宙・防衛事業領域	令和2年7月1日～ 令和4年7月31日	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、

地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (8月、1月)

(開催日時(実績))

第1回 令和3年2月25日 15:00～16:30

～昨年度はコロナ禍であり、通常2回開催するところ1回のみの開催となった。

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

①資格取得に関し、二運整の学科試験が19名中19名合格と100%であった。コロナ禍の環境下でもあり、例年と異なり特別な対応は? ~JCABの学科試験対策は以前から行っている。試験対策担当教官を中心に実施し良い結果が出た。日本航空技術協会発行の問題集を参考に、学校独自で過去の問題傾向の分析・解説を行っている。

②今年度はコロナ禍で弊社企業研修が中止となつたが、来年度は出来る限り開催したい。コロナ禍でWeb授業が増えた中で、学生とのつながりに気を付けたこと、フォローした点等については如何か?

～4月5月とWeb授業が続き、6月に学生が学校に出てきて開口一番『やっぱり対面授業が良いですね!!』と言ってくれたことが印象に残っている。人と人との直接話を進めるの大切さを実感した。

③留学生について説明があつたが、整備学科に於いても今後留学生を対象に募集して行く計画はあるのか?

～今まで留学生の受け入れは行っており、何名かいる。整備学科の募集要項の中に日本語検定2級以上としており、留学生の場合は必ず面接も行って訓練課程・整備士養成課程について行けるかその能力を確認している。現在2年生に1人留学生がいるが優秀な学生で、このまま行けばライセンスは問題なく取れると考えている。過去に企業に外国籍の学生が入社したが、優秀な学生であった。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

- ・日々進化する航空機の最新技術を授業に取り入れ、航空機整備に関連する知識とスキルの習得と興味関心の喚起を目的とする。
- ・航空業界の最新動向や求められる人材像等について企業等と連携して、日頃の学習内容の理解を深めると共に、社会人意識の涵養を目的とする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

① R2年10月22日

株式会社JALエンジニアリングから講師を派遣していただき、航空機の機体、発動機、装備品等の整備について整備現場の映像と講義を通して現場の生の様子を見聞きし大型機整備の概要を学ぶ。

～例年は成田の各センターの見学を行っていたが、コロナ禍の影響でビデオによる紹介となった。実際に見学に行く場合と比較し幅広い分野の作業状況、整備士の様子を詳細に知ることが出来た。特にエンジン整備センターでのエンジンパッチ修理では作業から完成まで見ることが出来技術力の高さを認識した。通常では叶わないコックピットでの整備作業を見ることが出来またない研修となつた。

② R2年12月14日

金属技研(株)千葉工場にて表面処理、非破壊検査等の特殊工程に関する知識の深化と現場を体験。

～学生は、表面処理は座学・実習を修了し、非破壊検査については学習中であった。今回、表面処理工程・浸透探傷検査を経験出来たことでこれまでの学習や今後の学習の理解が進むと考える。浸透探傷検査では、なかなかクラックが発見出来ず経験を要することを知りプラスチック作業体験ではブレードが見事にクリーニングされたことに印象深く記憶に残った。学校での学習が、どのように仕事に使われているか体験したこと、学習と仕事のつながりを発見でき、今後の授業に大いに期待出来る。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
機体実習・発動機実習・電子装備品実習	航空機の機体構造／システムに関する理論や構造及び航空機用発動機に関する理論や構造を学び、飛行機やタービン発動機に関する知識を習得する。	株式会社JALエンジニアリング
発動機実習⇒コロナ禍で実施出来なかつた。	航空機用発動機に関する概論や構造を学び、タービン発動機に関する知識を習得する。⇒計画していたが、コロナ禍で実施出来なかつた。	株式会社IHI ⇒コロナ禍で実施出来なかつた。
整備の基本技術	表面処理、非破壊検査等の特殊工程に関する知識の深化と生産現場の実体験。 ・表面処理工程：アルカリ洗浄、大気溶射、減圧プラズマ溶射、ショットピーニング等 ・非破壊検査：非破壊検査と浸透探傷検査概要、検査工程体験。	金属技研株式会社

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

- ・航空機や装備品整備の施設・設備・整備の流れや人員配置・修理改造等関連する法規による動向を確認し、カリキュラムや授業に反映する。
- ・企業が求める人材像、業務を完遂できる整備士像に結びつく、基本的事項である整理整頓、清掃、身だしなみ、挨拶ができる生徒を育成する機会とする。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:「金属技研株式会社における企業研修」

期間:令和2年12月14日(月)午後に実施。 対象:航空整備学科教員(3名)

内容:①全体説明:金属技研株式会社の概要、業務内容

②表面処理工程の概要説明(洗浄、溶射、研磨)

③現場実習(ブラスト作業、非破壊検査作業)

研修名:「小型航空機の整備に関する安全講習会」⇒オンラインにて開催された。

期間:令和3年3月29日(月)13時~ 対象:航空整備学科教員(3名)

内容:①国の安全対策:航空法改正(セキュラリティ)

②講演:航空安全情報自発報告制度(Voices)の活用(航空輸送技術研究センター)

③講演:過去の航空機事故から学ぶ(運輸安全委員会)

④講演:小型機に対するSMSについて(エアバス・ヘリコプターズ・ジャパン)

② 指導力の修得・向上のための研修等

* 予定していた研修がコロナ禍の影響で参加出来なかった。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:各種シンポジウム(航空局、日本航空技術協会、航空輸送技術研究センター)への参加

期間:令和3年度 対象:航空整備学科教員

内容:航空局、日本航空技術協会、航空輸送技術研究センター主催のシンポジウムに参加し、航空業界の最新状況、動向、最新技術、課題等の情報を入手することにより今後の授業に活かす。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「航空整備学科教員研修」(連携企業等:多摩川エアロシステムズ株式会社)

期間:令和3年8月 対象:航空整備学科教員

内容:多摩川エアロシステムズ社にて、航空機の部品整備(電装部品)の整備内容を研修予定。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

第3条 委員会は、成田つくば航空専門学校が「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づいて行った自己評価を行った上で、もとに学校評価を行うとともに、その評価結果を成田つくば航空専門学校の教育活動の向上および学校運営の改善に

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	評価項目は5項目設定している。概要は以下に記載。 <ul style="list-style-type: none">・教育理念、目的、育成人物像、職業教育の特色、学校の将来構想が明記されているか。・教育理念の周知状況。・学科に対応する業界に向けて方向づけられているか。
(2) 学校運営	評価項目は8項目設定している。概要は以下に記載。 <ul style="list-style-type: none">・目的等に沿った運営方針、運営方針に沿った事業計画策定されているか。・運営組織や意思決定機能の明確化。・人事、給与に関する規程化、教務・財務等の意思決定システムは整備されているか。・教育活動等に関する情報公開、業務の効率化が図られているか。

(3)教育活動	評価項目は14項目設定している。概要是以下に記載。 ・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。 ・教育到達レベルと学習時間の明確化、学科等のカリキュラムの体系化がされているか。 ・職業教育の視点に立ったカリキュラム、教育方法の工夫・開発などが実施されているか。 ・企業・業界団体等との連携によるカリキュラムの作成・見直し等が行われているか。 ・実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか。 ・授業評価の実施と評価体制の有無、外部関係者からの評価を取り入れているか。 ・成績評価・進級・卒業判定の明確化、資格取得等に関する指導体制の明確化。 ・教員の確保に関する事項、職員の能力開発のための研修等に関する事項。
(4)学修成果	評価項目は5項目設定している。概要是以下に記載。 ・就職率の向上、資格取得率の向上に関する事項。 ・退学率の低減が図られているか。 ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。
(5)学生支援	評価項目は10項目設定している。概要是以下に記載。 ・進路、就職、学生相談、経済的な支援体制に関する事項。 ・健康管理を担う組織体制、課外活動、生活環境への支援体制に関する事項。 ・保護者との連携、卒業生への支援体制、教育環境に関する事。 ・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか。
(6)教育環境	評価項目は3項目設定している。概要是以下に記載。 ・施設、設備、実習施設の整備に関する事項。 ・インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。 ・防災に対する体制は整備されているか。
(7)学生の受入れ募集	評価項目は3項目設定している。概要是以下に記載。 ・学生募集活動は、適正に行われているか。 ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。 ・学納金は妥当なものとなっているか。
(8)財務	評価項目は4項目設定している。概要是以下に記載。 ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。 ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。 ・財務について会計監査が適正に行われているか。 ・財務情報公開の体制整備はできているか。
(9)法令等の遵守	評価項目は4項目設定している。概要是以下に記載。 ・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。 ・個人情報に關し、その保護のための対策がとられているか。 ・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか。 ・自己評価結果を公開しているか。
(10)社会貢献・地域貢献	評価項目は4項目設定している。概要是以下に記載。 ・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。 ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。 ・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか。
(11)国際交流	設定なし。

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

- * 学校運営に関して、地域とのつながりが非常に重要な旨の意見が出され、引き続き連携強化の取り組みを確認した。
- * 教育活動の「教員確保」に関し、若手教員確保に向けた取り組み強化として、企業との連携強化、あらゆるリソースの展開を検討することとした。
- * 学生支援に関し、部活動が出来ない現状を踏まえ、主体性を持って行動する機会の確保を提案され、スポーツ大会/N-TAC祭を通じて、その機会を確保することとした。
- * 社会貢献・地域貢献に関し、地域のイベントへの参加/ボランティアを通して貢献することを検討することとした。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年7月1日現在

名前	所属	任期	種別
久野 嘉一	公益財団法人 日本航空技術協会	令和3年5月1日～令和5年5月31日	業界団体役員
百田 寛	株式会社 JALエンジニアリング	令和3年6月1日～令和5年6月30日	企業職員
熊谷 仁志	株式会社 IHI航空・宇宙・防衛事業領域	令和2年7月1日～令和4年7月30日	企業職員
水谷 真也	株式会社 インテックス	令和2年11月1日～令和4年11月30日	企業職員
佐々木孝明	多摩川スカイプレシジョン株式会社	令和3年6月1日～令和5年6月30日	企業職員
足立 知	株式会社 JALグランドサービス	令和3年6月1日～令和5年6月30日	企業職員
倉持 登	取手市小堀地区 区長	令和3年6月1日～令和5年6月30日	区長
平井 緑	成田つくば航空専門学校 保護者代表	令和3年6月1日～令和5年6月30日	PTA
吉田 典子	成田つくば航空専門学校 保護者代表	令和3年6月1日～令和5年6月30日	PTA
今村 吉宏	成田つくば航空専門学校 卒業生代表	令和2年11月1日～令和4年11月30日	卒業生
古橋 亮祐	成田つくば航空専門学校 卒業生代表	令和2年11月1日～令和4年11月30日	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <http://www.n-tac.ac.jp/>

公表時期:2021年8月

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に沿ったホームページによる情報公開に加えて、定期的な広報誌の送付などを通して、本校の教育活動を積極的に伝える。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校案内—ご挨拶・学校概要
(2)各学科等の教育	学科・コース—学科・コースの紹介
(3)教職員	学校案内—教官リスト
(4)キャリア教育・実践的職業教育	職業実践専門課程について
(5)様々な教育活動・教育環境	学校案内—キャンパスライフ／写真で見るN-TAC／動画で見るN-TAC
(6)学生の生活支援	学校案内—キャンパスライフ
(7)学生納付金・修学支援	入学案内—学費について
(8)学校の財務	学校財務
(9)学校評価	学校評価
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL:<http://www.n-tac.ac.jp/>

授業科目等の概要

(工業専門課程 航空整備学科 航空整備士コース) 令和3年度(1学年)														
必修	分類		授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数(90分)	単位数	授業方法		場所		教員		企業等との連携
	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任
1	○		ホームルーム 就職指導	学生生活での一般的指導、就職活動に向けた対応につき学習する。	1後	3		○		○		○		
2	○		一般教養 (SPI)	社会人として一般教養の基礎能力を高めると共に、就職試験に取り入れられている適正検査を事前に学習する。	1後	3		○		○			○	
3	○		英会話	外国人教師による英会話能力を高め、航空機整備・関連業務に役立たせる。	1通	20		○		○			○	
4	○		危険物取扱	航空整備業務関連する危険物取扱を学び、危険物乙4類の資格取得を目指す。	1後	12		○		○		○		
5	○		航空基礎	航空機整備に関連する業務英語/基礎数学/基礎物理の各基本を習得する。	1通	20		○		○		○		
6	○		航空法規	航空機整備業務に必要な航空法やその関連規則を学び、飛行機に関する知識を習得する。	1通	30		○		○		○		
7	○		航空力学	航空機の飛行に関する理論を学び、飛行機に関する知識を習得する。	1通	42		○		○		○		
8	○		機体構造	航空機の機体構造に関する理論や構造を学び、飛行機に関する知識を習得する。	1通	30		○		○		○		
9	○		システム	航空機システムに関する理論や構造を学び、飛行機に関する知識を習得する。	1通	30		○		○		○		
10	○		航空計器	航空機の計器関係装備品に関する理論や計器の構造を学び、飛行機に関する知識を習得する。	1通	30		○		○		○		
11	○		航空電子・電気基礎	航空機の電子・電気にに関する理論を学び、飛行機に関する知識を習得する。	1通	44		○		○		○		
12	○		航空電子・電気装備	航空機装備品に関する理論や構造を学び、飛行機に関する知識を習得する。	1後	18		○		○		○		

13	○		航空機器・航空電気電子実習	航空機装備品に関する構造や取付状況等を実機で確認し、飛行機に関する知識を習得する。	1 後	企 業 応 需				○	○	○	○	○
14	○		プロペラ	航空機用プロペラに関する理論や構造を学び、ピストン発動機、タービン発動機との関連知識を習得する。	1 通	30		○		○	○			
15	○		タービン発動機	航空機用発動機に関する理論や構造を学び、タービン発動機に関する知識を習得する。	1 通	50		○		○	○			
16	○		タービン発動機実習	航空機用発動機に関する構造や取付状況等を実機で確認し、タービン発動機に関する知識を習得する。	1 後	企 業 応 需		△		○	○	○	○	
17	○		機体実習 I	航空機の機体構造／システム構造を実機にて確認し、飛行機に関する知識を習得する。	1 後	49				○	○	○		
18	○		機体実習	航空機の機体構造／システム構造・発動機・装備品を実機にて確認し、飛行機に関する知識を習得する。	1 通	企 業 応 需				○	○	○	○	
19	○		電気実習	セスナ機の電源システムの知識習得と、構成部品・作動原理を習得する。	1 前	24				○	○	○		
20	○		整備に必要な技術 I	セスナ152及びセスナ172による基本構造、作動、地上取扱い、注意事項等の理解、整備士としての知識技能を習得する。	1 後	40				○	○	○		
21	○		整備の基本技術	航空機の基本技術を学び、航空機整備の基本の知識を習得する。	1 通	149		△		○	○	○		
22	○		整備の基本技術実習	基本技術のベンチ作業に於けるグラインダーおよびその付属設備の整備・保全・適正な作業管理の遂行を徹底して行う知識と技術を習得する。	1 後	企 業 応 需		△		○	○	○	○	
23	○		審査・試験	航空機整備の基本技術や専門知識の試験を通じて、知識のレベルアップを計る。	1 通	44		○		○	○			

(工業専門課程 航空整備学科 航空整備士コース) 令和3年度(2学年)												
学年	実習番号	実習名	実習内容	実習日数	実習時間	実習場所	実習担当者	実習評価	実習評議会	実習報告書提出	実習評議会提出	
前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	
24	○	ホームルーム、就職指導	学生生活での一般的指導、就職に向けて、履歴書作成、面接対応シミュレーションを行う	2 後	12		○		○	○	○	
25	○	一般教養(SPI)	社会人として一般教養の基礎能力を高めると共に、就職試験に取り入れられている適正検査を事前に学習する。	2 後	9		○		○	○	○	
26	○	英会話	外国人教師による英会話能力を高め、航空機整備・関連業務に役立たせる。	2 通	27		○		○	○	○	
27	○	航空基礎	航空機整備に関連する業務英語の基本を習得する。	2 通	27		○		○	○	○	
28	○	機体実習Ⅱ	シャイアン機をベースに航空機の機体構造／システム構造を実機にて確認し、飛行機に関する知識を習得する。	2 前	91				○	○	○	
29	○	シャイアン装備実習-ATA24Ⅱ	シャイアン機の電源システムの知識と構成部品、作動原理を実機にて確認し、シャイアン機に関する知識を習得する。	2 前	46				○	○	○	
30	○	シャイアン装備実習-ATA22, 23, 34Ⅱ	シャイアン機の航空計器、航法システム、通信システム、A/P-F/Dの構成部品、作動原理を実機にて確認し、シャイアン機に関する知識を習得する。	2 後	59				○	○	○	
31	○	シャイアン装備実習-ATA31, 33Ⅱ	シャイアン機の飛行計器類、航法計器類、機内/機外照明の構成部品、作動原理を実機にて確認し、シャイアン機に関する知識を習得する。	2 前	21				○	○	○	
32	○	プロペラⅡ	シャイアン機に装備されているプロペラに作用する力や制御装置及び付属品、指示系統、プロペラ整備に関する知識を習得する。	2 後	29				○	○	○	
33	○	タービン発動機実習Ⅱ	シャイアン機用タービン発動機とその関連システムの知識を習得する。	2 前	56				○	○	○	
34	○	発動機実習	航空機用発動機に関する概論や構造を学び、タービン発動機に関する知識を習得する。	2 後	企業応需		△		○	○	○	
35	○	整備に必要な技術Ⅱ	シャイアン機の基本構造、作動、地上取扱い、注意事項等の理解、整備士としての知識技能を習得する。	2 前	47				○	○	○	
36	○	整備の基本技術	航空機の基本技術を学び、航空機整備の基本の知識を習得する。	2 通	113		△		○	○	○	
37	○	整備の基本技術実習	航空機に使用される多様な非金属材料の一つであるFRP複合材を用いた構造部材の製造工程における工程管理の重要性・必要性を認識すると共に、バリエーション豊富な作業実能を学習する。	2 後	企業応需		△		○	○	○	
38	○	審査・試験	航空機整備の基本技術や専門知識の試験を通じて、知識のレベルアップを計る。	2 通	23		○		○	○	○	

(工業専門課程 航空整備学科 航空整備士コース) 令和3年度(3学年)												
40	○		ホームルーム、就職指導	学生生活での一般的指導、就職に向けて、履歴書作成、面接対応シミュレーションを行う	3 前	4		○		○	○	
41	○		一般教養(SPI)	社会人として一般教養の基礎能力を高めると共に、就職試験に取り入れられている適正検査を事前に学習する。	3 前	15		○		○		○
42	○		情報処理	Excel/Wordやその他関連するコンピュータの基礎を習得する。	3 通	35		○		○		○
43	○		航空基礎	航空機整備に関連する業務英語の基本を習得する。	3 通	20		○		○	○	
44	○		機体実習Ⅲ	シャイアン機をベースに航空機の機体構造／システム構造を実機にて確認し、シャイアン機に関する知識を定着させる。	2 後 3 前	110				○	○	○
45	○		シャイアン装備実習-ATA24Ⅲ	シャイアン機の電源システムの知識と構成部品、作動原理を実機にて確認し、シャイアン機に関する知識を定着させる。	3 前	20				○	○	○
46	○		シャイアン装備実習-ATA22, 23, 34Ⅲ	シャイアン機の航空計器、航法システム、通信システム、A/P-F/Dの構成部品、作動原理を実機にて確認し、シャイアン機に関する知識を定着させる。	2 後 3 前	21				○	○	○
47	○		シャイアン装備実習-ATA31, 33Ⅲ	シャイアン機の飛行計器類、航法計器類、機内/機外照明の構成部品、作動原理を実機にて確認し、シャイアン機に関する知識を定着させる。	3 後	14				○	○	○
48	○		プロペラⅢ	シャイアン機に装備されているプロペラに作用する力や制御装置及び付属品、指示系統、プロペラ整備に関する知識を定着させる。	3 後	21				○	○	○
49	○		タービン発動機実習Ⅲ	シャイアン機用タービン発動機とその関連システムの知識を定着させる。	2 後 3 前	61				○	○	○
50	○		整備に必要な技術Ⅲ	シャイアン機の基本構造、作動、地上取扱い、注意事項等の理解、整備士としての知識技能を定着させる。	2 後 3 前	86				○	○	○
51	○		整備の基本技術	航空機の基本技術を学び、航空機整備の基本の知識を定着させる。	3 前	133		△		○	○	○
52	○		審査・試験	航空機整備の基本技術や専門知識の試験を通じて、知識のレベルアップを計る。	3 通	30		○		○	○	
合計				51科目	2552単位時間(単位)							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
当該学科の修業年限を在学し、学科が定める卒業基準を満たした者。授業科目の履修認定は、出席状況と日常の学習成果及び試験結果による。		1学年の学期区分	前期・後期

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合

については、主たる方法について○を付し、他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。